

# 大都市における少子化と子育て支援の日韓比較研究

北海道大学 金昌震

## 1. 目的

近年、日韓両国は、年少人口の減少や合計特殊出生率が低下する少子化問題を抱え、少子化への社会的対応が重要な課題になっている。本稿の目的は、少子化対策の一部を構成する子育て支援ネットワークの形成の実態と子育て環境の調査を通して、少子化対策や子育て支援のあり方について検討することにある。

## 2. 方法

札幌市の子育て支援総合センターといくつかの児童会館、ソウル市では保育情報センターとを訪ねて、そこを利用する親に半構造化インタビューを実施した。収集されたデータに基づいて施設が生み出す利用者間の社会関係資本の類型、および新しく作られたママ友集まりについて、パットナムの結束型と橋渡し型を軸として、金子の「集まり3段階論」に応用しながら課題を考察する。

## 3. 結果

日韓において子どものケアをめぐる社会的ネットワークについては、育児責任が母親に集中していることや父親の育児参加は少ないことは、両国に共通的に見られている。また、韓国では母親・父親の親族による育児への協力度合が日本より若干大きく、先行する落合（2006）の調査結果と一致している。しかし、韓国では現在（2013年3月）、保育園の入園資格がなく、全面的な無償保育が実施され保育園・幼稚園の役割が以前より大きくなっているところがあり、違いもみられる。

子育て支援施設は地域社会の中でどのような数で、どこに位置し、どのようなサービスを、誰が利用するかによって、施設が生み出す社会関係資本の性質が大きく異なる。

札幌市の支援センターは、人々が自由に行き来できる開放性（土・日・祝日も開放）、近接性（都市の中心部、交通の利便さなど）の基盤に、施設に行きたがる安全性、快適性、交流性をそろえている。そのため、一時的・限定的に利用するママ友の“coming”の集合活動が比較的によく見られ、パットナムのいう橋渡し型の社会関係資本を生み出していると考えられる。

また、児童会館は支援センターとは異なり各区に多くあるので、施設の近在者が常時的、利用自体が目的となるママ友の“Keeping”集合活動の傾向が顕著に見られた。さらに、ママ友集団は児童会館の以外の場所でもその集まりが維持、活用（Working）されており、この集まりの個人間の結束は比較的強く、親密な繋がりで結ばれている。それが集団の閉鎖性を高めて新しいメンバーらがうまく入り込むことが難しいという結束型の逆機能も見られている。

一方、韓国の保育支援センターは、内部で特化した大規模の施設（図書館、玩具レンタル、遊び場など）や育児プログラム（母親の育児教室、遊び教室など）などを提供する「集中型センター」であり、内部施設やサービスごとに橋渡し型・結束型という両機能が生み出されていると思われる。

## 4. 結論

暫定的な結論を図示すれば以下の通りになる。子育て支援施設の性質や集まりの集合活動によって異なる社会的ネットワークが形成されるが、その活用による子育て支援の条件探究を続けたい。

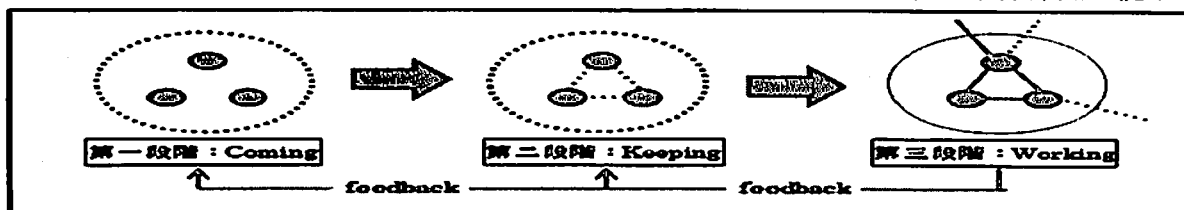


図 集まりの3類型によるネットワークづくり

### 【主要参考文献】

金子勇, 2011, 『コミュニティの創造的探求』新曜社.